

99 人権・啓発関係文献目録

- 1998年5月)
- ・津田 潔「小説『破戒』・私注」
『部落問題研究』144 (部落問題研究所、1998年6月)
 - ・秦 重雄「〈差別小説〉『特殊部落』を検証する」
 - ・渡邊巳三郎「灰谷健次郎『笑いの影』の差別問題」
『部落問題研究』144 特別号(部落問題研究所、1998年6月)
 - ・川端俊英「部落問題と文芸分科会：討議」
 - ・桑原 律「部落問題と文芸分科会：高橋和巳作『貧者の舞』と「文学評論」のあり方」
 - ・秦 重雄「部落問題と文芸分科会：〈差別小説〉『特殊部落』を検証する」
 - ・渡邊巳三郎「部落問題と文芸分科会：灰谷健次郎『笑いの影』の差別問題」
『部落問題—調査と研究—』135(岡山部落問題研究所、1998年8月)
 - ・赤木直也他「「人権とは何か」(上)企業、職場からのレポート
 - ・新保 満「少数民族の同化と排除(五)—オーストラリアのアボリジニー(1)」
『部落問題—調査と研究—』136(岡山部落問題研究所、1998年10月)
 - ・碓井敏正「人権の現在を考える—第一回 新たなる人権問題の発生—」
 - ・新保 満「少数民族の同化と排除(六・最終回)—オーストラリアのアボリジニー(2)」
 - ・赤木直也・青砥暉幸・中元輝夫・中田伸二・萩原嗣郎・三尾 博・向野宏治・山口和秀・石岡克美・滝本宏樹「「人権とは何か…」(下)企業、職場からのレポート」

- 『部落解放』439(解放出版社、1998年7月)
- ・那須麻千子「“命”を選別する出生前診断」
 - ・森井 暉「非道な「検察官の再控訴」甲山事件の無罪判決と検察控訴について」
 - ・広岡浄進「個人としての対話に可能性を求めて」
- 『部落解放』442(解放出版社、1998年8月)
- ・部落解放同盟大阪府連合会日之出支部女性部「女性共闘と反差別・国際連帯をめざして—淀川・東淀川女性連絡会と女性部の取り組み」
 - ・部落解放同盟京都府連合会天川支部女性部「ともにやりきる喜びや共感のある活動を一女性の組織建設にむけた取り組み」
 - ・部落解放同盟和歌山県連合会新宮支部女性部「「ケガレ」意識は女性差別—差別の結界石を調査して」
 - ・部落解放同盟香川県連合会西床支部女性部「地区住民の定住権、生活権を守ろう—「公営住宅法」改悪に伴う「坂板出市条例」改定反対闘争」部落解放同盟福岡県連合会筑紫地区協議会女性部「「ムラのゴールドプラン」を一高齢者実態調査からみえたもの」
 - ・「福祉運動・みどりの風」人権プロジェクト「精神障害者の人権とまちづくり—精神障害者の総合的自立支援とは—大阪の実践を通して(下)」
 - ・柏木 宏「ポスト提案209時代のアフェーマティブ・アクションの現状と将来」
- 『部落解放』443(解放出版社、1998年9月)
- ・武者小路公秀「人権とはなにか」
 - ・キム・ドンフン「世界人権宣言の思想と今日的意義」
 - ・友永健三「世界人権宣言と日本の人権」
 - ・柏木 宏「米国三菱のセクハラ訴訟、3400万ドルで和解」
- 『部落解放』444(解放出版社、1998年10月)
- ・北口末広「これからの企業啓発」
 - ・今野敏彦「21世紀の企業啓発・研修の創造」
 - ・香野貞人「差別体質を見据えて啓発を」
 - ・小川芳昭・小暮一美・西原昌則・木村敏治・上平桂士「【座談会】人権を経営の根幹に」
 - ・藤本忠義「「部落出身を暴露されたくなければ500万円もってこい」
 - ・木津 讓「差別と向きあう宗教者に」
 - ・山上益朗「石川一雄さんの自白に真実性は認められない」
- 『部落解放』445(解放出版社、1998年11月)
- ・赤井隆史「「差別調査事件」の真相と今後の課題」
 - ・部落解放同盟中央本部「差別身元調査事件闘争本部の設置にあたって」
 - ・部落解放同盟中央本部「「えせ同和」行為の排除に向けて」
- 『部落解放研究』120(部落解放研究所、1998年2月)
- ・森 実「参加型学習による人権啓発のイノベーション」
 - ・柚木祖元「活動レポート／曹洞宗における啓発活動の現状」
 - ・船橋邦子「「男女共同参画」は21世紀の社会変革の鍵となるか—「男女共同参画2000年プラン」の歴史的背景と活用をめぐって—」
- 『部落解放闘争』25(部落解放理論センター、1997年10月)
- ・中田 潔「差別糾弾闘争の現状と当面する課題」
- 『部落解放なら』9(奈良県部落解放研究所、1998年3月)
- ・大西 順「捕る側の立場を“知ろうともせぬ”動物愛護は容認できない」
 - ・染川明義「三味線皮革をとりまく問題について」
- 『部落問題研究』143(部落問題研究所、

所、1998年4月)

- ・辻 暉夫「部落解放運動は今」
『ヒューマンライツ』123 (部落解放研究所、1998年6月)
- ・上田育子「静かなストライキの背景は—
待たれるパートへの差別規制」
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイド—
人権教育リーダーを育てる 第一回」
- ・桑原 律「高橋和己作『貧者の舞』と「文
学評論」のあり方」
- ・竹信三恵子「金融ビックバン—女性から
の3つの懸念—誰のための「自己責任」
「透明化」「効率化」
- ・林 誠子「新しい社会システムの可能性
改正均等法と個の自立」
- ・矢野恵子「母胎保護法に胎児条項の動
き」
『ヒューマンライツ』124 (部落解放・人権
研究所、1998年7月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイド—
人権教育リーダーを育てる 第2回」
- ・田上時子「子どもと暴力・考 第1回」
『ヒューマンライツ』125 (部落解放・人権
研究所、1998年8月)
- ・柏木 宏「米国三菱のセクハラ訴訟和解
—補償金3400万ドル、企業社会に警鐘」
- ・田上時子「子どもと暴力・考 第2回」
『ヒューマンライツ』126 (部落解放・人権
研究所、1998年9月)
- ・森田ゆり「多様性トレーニングガイド—
人権教育リーダーを育てる」
『ヒューマンライツ』129 (部落解放・人権
研究所、1998年12月)
- ・川村暁生「人権をルールとした社会づく
り—国内人権機関の構想」
- ・友永健三「第1回カースト差別撤廃世界
会議に参加して」
『ひょうご部落解放』81 (兵庫部落解放研
究所、1998年5月)
- ・八幡悦央「地域で生き、主張する主体を

育む」

- ・高野眞澄「人権擁護委員制度のしくみと
現況」
『ひょうご部落解放』82 (兵庫部落解放研
究所、1998年7月)
 - ・ながきのりこ「戸籍パズル—はじき出さ
れた一ピース戸籍に記載のない子ども
の問題」
『ひょうご部落解放』83 (兵庫部落解放研
究所、1998年9月)
 - ・禱 弥生・安田鶴美・皇甫康子「女の問
題だけでは語れない私たちの生き方」
 - ・細見義博「尼崎市啓発紙の差別記載をめ
ぐって」
- <フ>
- 『部落』630 (部落問題研究所、1998年2月)
 - ・村崎勝利／大原光夫／鳥飼慶陽／加藤
西郷／司会・構成東上高志「座談会宗教
と宗教界をめぐる問題」
『部落解放』434 (解放出版社、1998年2月)
 - ・「第2分科会 人権と平和の確立をめざ
した反差別共同闘争の前進を」
 - ・「第3分科会 狭山再審闘争の課題と司
法反動との闘い」
 - ・「第4分科会 差別事件の実態と糾弾闘
争の課題」
 - ・「第12分科会 これからの啓発を考え
る」
 - ・「第13分科会 ケガレ観と日本の文化」
 - ・萱野 茂「意見発表1「アイヌ新法」制
定と今後の課題」
『部落解放』435 (解放出版社、1998年3月)
 - ・染川明義「滅びゆく自文化」
 - ・沖浦和光×宮田 登「[対談]ケガレと差
別をめぐる(上)」
 - ・辻本正教「三味線の猫皮問題に部落民の
人間としての尊厳をかける」
『部落解放』436 (解放出版社、1998年4月)
 - ・沖浦和光×宮田 登「対談……ケガレと
差別をめぐる(下)」

『国際人権』9 (国際人権法学会、1998年6月)

- ・メアリー・ロビンソン「NGOとのパートナーシップ-新しい挑戦」
- ・藤本俊明「社会権規約の再生-忘れられてきたもう一つの国際人権規約-」

『国民融合通信』283 (国民融合をめざす部落問題全国会議、1998年1月)

- ・伊賀興一「提言・人権についての基本的な考え方」

『国民融合通信』287 (国民融合をめざす部落問題全国会議、1998年4月)

- ・峯岸賢太郎「同和教育・啓発と人権教育・啓発：一人権擁護施策推進法に関連して-」

『国民融合通信』289 (国民融合をめざす部落問題全国会議、1998年6月)

- ・横山清一「自由法曹団大阪支部の『意見書』について大阪府「差別のない人権尊重のまちづくり」(提言)を批判する」
- ・自由法曹団大阪支部「人の内心に干渉し、市民の行政批判を圧殺する、いわゆる「市民啓発条例」の制定に断固反対する『意見書』(その三)」

<シ>

『人権問題研究みえ』(三重県人権問題研究所、1998年9月)

- ・宮崎吉博「市町村における人権啓発活動に関する調査」
- ・田畑重志「電子ネットを利用した差別煽動問題と今後～人権研究会活動を」

<ス>

『スティグマ』0035 (千葉県人権啓発センター、1998年6月)

- ・鎌田行平「松戸市・酒々井町・野田市「人権問題市民意識調査」」

<タ>

『第28回部落解放・人権夏期講座』433号臨時号 (解放出版社、1998年2月)

- ・金城清子「生命倫理と人権」

- ・福島瑞穂「男女共生社会を目指して」
- ・野村義一「「アイヌ新法」の制定と課題」
- ・鈴木裕子「「従軍慰安婦」問題が問いかけるもの」
- ・石飛 仁「結婚差別を取材する中から」
- ・徐 正禹「在日コリアンの人権課題」
- ・北口末広「人権時代の企業」
- ・中野恵美子「メディアと人権」
- ・本田哲郎・西岡 智「「寄せ場」労働者と人権」

<ト>

『都市問題研究』573 (都市問題研究会、1998年9月)

- ・利谷信義「男女共同参画社会の意義」
- ・戒能民江「女性に対する暴力と女性の人権」
- ・上杉孝實「教育と男女共同参画」
- ・西谷 敏「「男女共同参画社会」と雇用・就労」
- ・名取はにわ「男女共同参画社会づくりを目指して」
- ・西澤由美子「「大阪市男女共同参画プラン」から」

<ネ>

『ねっとわーく京都』116 (ねっとわーく京都刊行委員会、1998年9月)

- ・「京都の部落を歩く第3部第8回「差別者」を追跡せよ」

<ハ>

『はらっぱ』175 (子ども情報研究センター、1998年6月)

- ・和田洋子「自分らしく生きていいんだよ「フェミニストカウンセリングから視えてきたこと」」

『はらっぱ』179 (子ども情報研究センター、1998年10月)

- ・林 誠子「女性労働に関わる労働法改定の動向と出産・子育て」

<ヒ>

『ヒューマンライツ』121 (部落解放研究

(3) 部落問題・人権関係逐次刊行物

<ア>

『明日を拓く』23、24 (東日本部落解放研究所、1998年3月)

- ・川本祥一「伝統芸能に見る文化の関係性—内在文化の体系」

『明日を拓く』25 (東日本部落解放研究所、1998年6月)

- ・聞き手／編集部「甲山事件と「差別の構図」—浜田寿美男さんに聞く」

<ウ>

『ウインズ・風』15 (福岡県同和教育研究協議会、1998年7月)

- ・久屋孝夫「社会と言語と性差別 (五)」

『ウインズ・風』16 (福岡県同和教育研究協議会、1998年9月)

- ・久屋孝夫「社会と言語と性差別 (六)」

<カ>

『解放の道』170 (全国部落解放運動連合会、1998年3月)

- ・「人の内心に干渉し、市民の行政批判を圧殺するいわゆる「市民啓発条例」の制定に断固反対する意見書 (第一次案)」

『解放の道』175 (全国部落解放運動連合会、1998年8月)

「シンポジウム 差別問題と人権擁護のあり方」

司会：奥山峰夫 (部落問題研究所)

パネリスト：石倉康次 (広島大学)

村下 博 (大阪経済法科大学)

「第4回部落問題全国自治体交流会 第4分科会人権教育・人権啓発」

- ・梅田 修 (滋賀大学)
- ・前田 武 (全解連中央執行委員)

『解放の道』176 (全国部落解放運動連合会、1998年9月)

- ・井関佳法「身分調査とプライバシーの権利について」

『解放の道』177 (全国部落解放運動連合会、1998年10月)

- ・川村俊夫「世界人権宣言五〇周年と日本の人権実態」

『解放教育』363 (明治図書、1998年3月)

- ・友永健三「座標世界人権宣言五〇周年と人権状況の課題」

『解放教育』367 (明治図書、1998年7月)

- ・松浦洋栄「〈いのち〉の情景その3」
- ・西村寿子「メディア社会に生きる子どものエンパワーを」

『解放教育』371 (解放教育研究所、1998年11月)

- ・前川 実「これからの人権教育の方向を探る「人権フォーラム21」の提言づくりの活動」

『関西大学人権問題研究室紀要』37 (関西大学人権問題研究室、1998年9月)

- ・吉田永宏「藤村『破戒』と部落問題 (三)」

<ク>

『グローブ』13 (世界人権問題研究センター、1998年4月)

- ・野口道彦「結婚忌避態度における性差の意味」

『グローブ』14 (世界人権問題研究センター、1998年7月)

- ・米田真澄「女性のためのシェルター」

<ケ>

『研究紀要』15 (子ども情報研究センター、1998年5月)

- ・眞野京子「出生前診断をめぐる考察」

『現代のエスプリ』376 (至文堂、1998年11月)

- ・宮崎繁樹「国際人権の現代的課題」

<コ>

『こべる』60 (こべる刊行会、1998年3月)

- ・野町 均「永井荷風と部落問題—天皇直訴事件のひとつの波紋」

『しんぶん赤旗』評論特集版』(1998年2月)

- ・真野 隆「『国連人権教育10年』を利用した「啓発」強化の策動—政府の国内行動計画をめぐって

<セ>

『世界』11 (岩波書店、1998年11月)

- ・スティーブン・ギル／武者小路公秀／遠藤誠治「グローバリゼーションと民主主義の危機」

『世界の労働』9 (日本ILO協会、1998年9月)

- ・郷野晶子「性による職業分離(上)—性による職業の分離に関する理論—」

『『性と生の教育』性教育に「少数者と被害者」のセクシャリティを』8月臨時増刊号 (あゆみ出版社、1998年8月)

- ・金子真知子・小野寺真澄・鈴木典子・高柳美智子「座談会：「子どもと人権」をめぐる大人の課題」

『前衛』8月 (日本共産党中央委員会、1998年8月)

- ・寺沢亜志也「『テレビ暴力』への社会的規律確立への探求」

『前衛』10月 (日本共産党中央委員会、1998年10月)

- ・岩藤智彦「国連子どもの権利委員会の「勧告」と日本政府の態度」

<タ>

『大調協ニュース』27 (1998年1月)

- ・石川寛俊「興信所・探偵社業者研修会実施報告「調査業と社会」」

<フ>

『婦人展望』495 (市川房枝記念会、1998年7月)

- ・大沢眞理・縫田曄子「人権擁護施策推進法を考える—「国内行動計画」との組み合わせが意味するもの—男女共同参画

社会基本法(仮称)の論点整理<抜粋>」

- ・角田由紀子「論点ドメスティック・バイオレンスをなくすために」

『婦人展望』498 (市川房枝記念会、1998年10月)

- ・國信潤子「モンゴルの草原に魅せられて—第三回東アジア女性フォーラム」

- ・吉武真理「ノルウェーの男女平等はいま—男女平等オンブズマンを中心に」

<ホ>

『法律時報』871 (日本評論社、1998年10月)

- ・服部孝章「Vチップと表現の自由」
- ・紙谷雅子「チャイルド・ポルノグラフィと表現の自由」

『法学セミナー』7月 (日本評論社、1998年7月)

- ・高野眞澄「人権擁護推進審議会の由来と現状」

- ・宮崎繁樹「人権擁護委員制度のしくみと現況」

- ・山崎公士「人権擁護制度の実効性と国内人権機関に関する国連のパリ原則」

『法律のひろば』51 (ぎょうせい、1998年5月)

- ・(資料)職場におけるセクシャル・ハラスメントに関する労働省指針

『法学論集』第39号 (大阪経済法科大学法学会、1998年11月)

- ・浅川千尋「ドイツにおけるセクシャル・ハラスメントをめぐる最近の動向」

<ロ>

『論座』8月 (朝日新聞社、1998年8月)

- ・菅谷明子「画面から暴力と性を遮断したVチップの限界」

『論座』10月 (朝日新聞社、1998年10月)

- ・菅谷明子「アメリカが気づき始めた「メディア教育」の威力」

(2) 逐次刊行物

<カ>

『上方芸能』128(『上方芸能』編集部、1998年1月)

- ・川元祥一「門付芸と日本の文化」
- ・太田恭治「蘇る春駒」

<キ>

『教育評論』616(アドバンテージサーバー、1998年8月)

- ・村松泰子「子ども向けメディアをジェンダーの視点から読む」
- ・中野麻美「労働基準法改正案の問題点」

<ク>

『軍縮問題資料』210(宇都宮軍縮研究室、1998年4月)

- ・武者小路公秀「グローバル化の下での開発と安全政策—評価基準としての「人間安全保障」」

<コ>

『「子どもの人権」大阪会議』4(子ども情報研究センター、1998年8月)

- ・平野裕二「国連・子どもの権利委員会による日本の第一回締約国報告書の審査について」

『子どもの権利条約』創刊号(エイデル研究所、1998年8月)

- ・平野裕二「日本政府報告の審査の特徴と問題の焦点」
- ・平野裕二訳「【資料】子どもの権利委員会の総括所見：日本」
- ・平清太郎「動き始めた「子どもの人権専門委員」」

<サ>

『サイ(SAI)』28(大阪国際理解教育研究センター、1998年9月)

- ・八尾勝「SAI・サイコ・心—差別の心理を考える 第26回」
- ・藤井誠二「子ども買春・ポルノ禁止法案」

<シ>

『自由と正義』496(日本弁護士連合会、1998年7月)

- ・メアリー・ロビンソン『国際人権活動の新しい挑戦—NGOとのパートナーシップ』

- ・林弘子「雇用機会均等法・労働基準法改正の概要と問題点」

『自由と正義』497(日本弁護士連合会、1998年8月)

『自由と正義』499(日本弁護士連合会、1998年10月)

- ・久岡英樹「「ひまわり」を咲かそう—大阪弁護士会「高齢者・障害者総合」

- ・第41回人権擁護大会シンポジウムレジュメ「第3分科会家族と暴力—妻への暴力、子どもへの虐待の根絶に向けて

『ジュリスト』1127(1998年2月)

- ・唄孝一「選択的夫婦別氏制(1)—その前史と周辺」

『ジュリスト』1144(有斐閣、1998年11月)

- ・三満照敏「海外法律情報(韓国)人権法試案をめぐる論議」

- ・堀部政男「個人情報保護論の現在と将来」

- ・三満照敏「韓国—人権試案をめぐる論議」

- ・岩城成幸「ロシア—抵当権(不動産担保)に関する連邦法」

『少年育成』511(大阪少年補導協会、1998年10月)

- ・石橋俊一「ある児童ポルノ事件の捜査から」

- ・いのうえせつこ「児童買春も児童ポルノも」

『人権ニュース』64(電通、1998年2月)

- ・堀部政男「「インターネットと人権」を考える」

- <ト>
 富田 哲『夫婦別姓の法的変遷—ドイツにおける立法化—』(八朔社、1998年9月)
- <ナ>
 仲尾俊博「悪平等論と宿業論(遺稿)」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
 永井憲一『子どもの人権と裁判—子どもの権利条約に即して』(法政大学現代法研究所、1998年3月)
 中山英一『被差別部落の暮らしから』(朝日新聞社、1998年7月)
 永井 哲『マンガの中の障害者たち—表現と人権』(解放出版社、1998年7月)
- <ニ>
 日本経済新聞社『女たちの静かな革命』(日本経済新聞社、1998年8月)
 日本弁護士連合会刑事弁護センター『アメリカの刑事弁護制度』(現代人文社、1998年4月)
 日本弁護士連合会『家族・暴力・虐待の構図』(読売新聞社、1998年9月)
 二文字理明『人間としての尊厳』(野嶋スマ子、1998年7月)
- <ハ>
 原尻英樹『「在日」としてのコリアン』(講談社、1998年7月)
- <ヒ>
 ヒューマンライツ教育財団『西成区在日コリアン人権意識調査報告書』(ヒューマンライツ教育財団、1998年4月)
 東 裕子「スクールセクハラについて」『大阪における子どもの権利』(「子どもの人権」大阪会議、1998年8月)
- <フ>
 藤 泰澄「親鸞の平等観「被救済の資格としての十方衆生論」」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
- 部落解放研究所『新聞でみる部落問題／1998年度版』(解放出版社、1998年3月)
 部落解放研究所『部落解放年鑑—1997年度版—』(解放出版社、1998年3月)
 「第2編差別事件」
 「第9編反差別人権擁護活動」
 「第10編啓発」
 「第11編マスコミ」
 「第12編企業」
 「第13編宗教」
- <ミ>
 三原芳一『「調査研究報告・花園大学学生の人権意識の時系列的状況」を読む—教育のパラドックス」』『情報化時代と人権』(法政出版、1998年3月)
- <ム>
 村田恭雄『エコロジーと人権』(明石書店、1998年8月)
- <モ>
 毛利勝典「真宗僧侶の融和主義的傾向についてその歴史と現状」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
- <ヨ>
 吉川武彦『「こころの病い」事始め—精神障害者問題入門』(明石書店、1998年9月)
- <ワ>
 和田隆夫「インターネットと人権」『情報化時代と人権』(法政出版、1998年3月)
 シンポジウム(司会)吉崎昌一『アイヌ文化を伝承する萱野茂アイヌ文化講座II』(草風館、1998年7月)
- ・吉崎昌一／野本正博／津田命子「アイヌ文化はどう継承されていくのか」
 - ・中川 裕／上武やす子／貝澤裕子「アイヌ語教室とアイヌ語の未来」
 - ・小川隆吉「教育相談員から見た差別の実態」

- 篇一』(部落問題研究所、1998年5月)
- 川橋幸子『わかりやすい男女共同参画政策と女性のエンパワーメント』(労働教育センター、1998年7月)
- 川元祥一『旅芸人のフォークロア』(農山漁村文化協会、1998年3月)
- 川村暁雄「第三章人権とNGO」『ハンドブックNGO』(明石書店、1998年4月)
- <キ>
- 季平博昭「宗教と人権」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
- <ク>
- 黒田征太郎『すべてのヒトは人だ—世界人権宣言—』(解放出版社、1998年10月)
- 窪田容子「母親による子どもの虐待」『大阪における子どもの権利』(「子どもの人権」大阪会議、1998年8月)
- <コ>
- 子ども情報研究センター「大阪府内自治体「子どもの権利」調査」『大阪における子どもの権利』(「子どもの人権」大阪会議、1998年8月)
- 小森哲郎／山崎勝弘／川村文男／岩田千明『21世紀の人権啓発への提言』(明石書店、1998年7月)
- 申恵丰／阿部浩己監修/アムネスティ・インターナショナル日本支部国際人権法チーム著『個人通法制度って知ってる？自由権規約選択議定書の実現を目指して』(現代人文社、1998年3月)
- 国際女性の地位協会『女性関連法データブック』(有斐閣、1998年10月)
- 子どもの人権連／反差別国際運動日本委員会編者『子どもの権利条約日本の課題95』(労働教育センター、1998年1月)
- <サ>
- 斎藤 真「差別について」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
- 榊原富士子『戸籍制度と子どもたち』(明石書店、1998年3月)
- 産労総合研究所編『人事スタッフのための職場のセクハラ防止マニュアル』(経営書院、1998年2月)
- <シ>
- 「知っていますか？精神障害者問題一問一答」編集委員会編『知っていますか？精神障害者問題一問一答第2版』(解放出版社、1998年11月)
- 人権フォーラム21編『当事者からみた日本の人権白書 人権フォーラム21からの提言①』(人権フォーラム21、1998年9月)
- 白井俊一『勇気がでてくる人権学習』(解放出版社、1998年11月)
- <ス>
- 杉之原寿一『人権意識の調査研究(続)』(兵庫部落問題研究所、1998年2月)
- 諏訪春雄『日本の祭りと芸能—アジアからの視座』(吉川弘文館、1998年7月)
- <セ>
- 生命操作を考える市民の会『生と死の先端医療—いのちが破壊される時代—』(部落解放・人権研究所、1998年9月)
- <ソ>
- 総理府『男女共同参画白書(平成10年版)』(大蔵省印刷局、1998年7月)
- <タ>
- 高柳泰代『たたかえ！色覚異常者』(主婦の友社、1998年3月)
- <ツ>
- 坪井節子『子どもは大人のパートナー』(明石書店、1998年7月)
- 津田正夫・平塚千尋『パブリック・アクセス—市民が作るメディア』(リベルタ出版、1998年7月)
- <テ>
- 定住外国人の地方参政権をめざす市民の会『定住外国人の地方参政権』119(かもがわ出版、1998年10月)

資料

人権・啓発関係文献目録

(1998年1月～1998年11月)

以下の目録は、本号特集の一環として、概ね1998年1月から1998年11月の間に発表された著作・論文を対象に、(1)単行本・冊子、(2)逐次刊行物、(3)部落問題・人権関係逐次刊行物に分類して掲載した。(1)は編著者の、(2)(3)は逐次刊行物名の50音順に配列した。

(1) 単行本・冊子

- 〈ア〉
浅井成海「同盟運動の基本理念—仲尾論文に学ぶ—」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
アムネスティ・インターナショナル日本支部『難民からみる世界と日本アムネスティ・インターナショナル日本支部人権講座講演録』(現代人文社、1998年4月)
アムネスティ・インターナショナル日本支部編/飯沢耕太郎写真監修『はじめてよむ世界人権宣言』(小学館、1998年5月)
荒巻 裕『国境を越える人権』(人文書院、1998年4月)
- 〈イ〉
伊藤公雄『ジェンダーで学ぶ社会学』(世界思想社、1998年3月)
稲葉通太監修/草の根ろうあ者こんだん会編集『知っていますか?聴覚障害者の暮らし—問—答』(解放出版社、1998年4月)
泉 恵機「高木顕明と部落差別問題(二)」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
今田達裕「業の真意」『信心の社会性』(同和教育振興会、1998年3月)
今江祥智/上野瞭/山下明生『宝島へのパスポート子どもの本はいま』(解放出版社、1998年8月)
石川県高等学校野外調査研究会「地域を豊かに」『加賀・能登の伝統産業～今に伝わ
- るふるさとの技術～』(能登印刷出版部、1998年3月)
- 〈ウ〉
馬橋憲男/斎藤千宏編著『ハンドブックN G O』(明石書店、1998年4月)
浦部法穂/中北龍太郎『ドキュメント「日本国憲法」』(日本評論社、1998年5月)
- 〈オ〉
大枝 明「多文化共生教育と学校の役割」『大阪における子どもの権利』(「子どもの人権」大阪会議、1998年8月)
大阪府調査業協会運営審議会『答申』(1998年6月)
大阪人権博物館編『色に出でにけり～身分と差別～』(大阪人権博物館、1998年10月)
・高橋泰世「「色盲」「色弱」は病弱ではなく個性なので」
大阪同和問題企業連絡会編『証言—部落問題と向きあって』(解放出版社、1998年8月)
大沼保昭/下村満子/和田春樹『「慰安婦」問題とアジア女性基金』(東信堂、1998年10月)
- 〈カ〉
神奈川県県民部県民総務室人権・同和担当編集『改定神奈川県人権施策推進指針人権がすべての人に保障される地域社会づくりのために』(1998年3月)
川端俊英『人権から見た文学の世界—明治